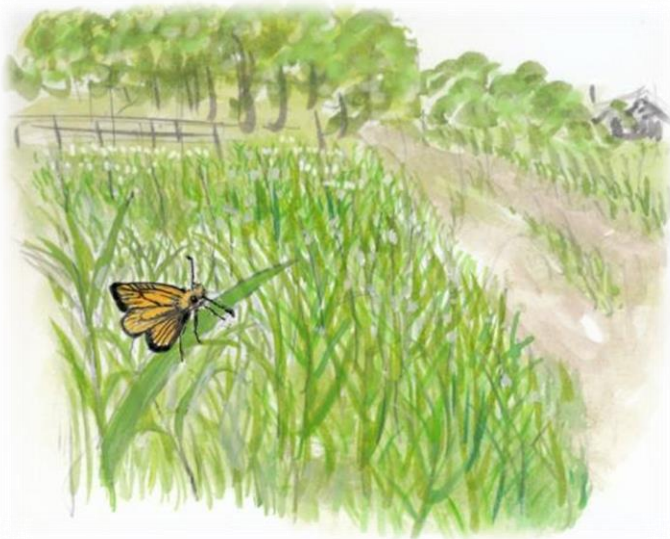


3. スジチャとヘリチャ



スジチャ



ヘリチャ

今回の地味チョウシリーズはセセリチョウの兄弟種スジグロチャバネセセリとヘリグロチャバネセセリです。林道の草むらに飛び回っていますが、セセリの中でも超小型。見過ごされてしまう蝶かもしれませんが、よく見るとすきっと美しいチョウだと思います。まあ、そんなことに気付かされるのも、不惑の歳になってからで、蝶への審美眼が渋い所まで届くには少々時間がかかるのかもしれませんが。では兄と弟、本人たちには迷惑かもしれませんがちょっと比較しながら見ていくことにしましょう。

出会い

さて、両種の出会いからさかのぼってみることにします。虫捕り網を振り回し、標本作りを始めていた札幌の小学生だったころには、どうにも記憶はありません。藻岩山にも兄と時々行ったのですが、おそらく兄の眼にも入らなかったと思います。その後の中学は紋別・下関ですからここでも出会いは無いはずです。あれ—最初に採ったのはいつかなと、米子の高校時代から付けている採集記録をめくってみると、ありました。1971年の高3の時です。高2の時から大山にはよく通ったのですが、その年はスルーしています。もっぱらゼフやヒメヒカゲ、ウスイロヒョウモンモドキなどにうつつを抜かしていたようです。そんな中で初記録は1972年7月20日、大山榭水原、スジチャ1♂2♀とあります。ちなみにその時にもゼフを狙っていたようで、「ダイセン多し、採卵の見込み大きい。ウスイロ多数見るがボロ、発生期に来ればよいと思われる・・・。」などと書かれ、初対面のはずなのにスジチャのことは何も書かれていません。その後の兄の記述にはヘリチャも登場していますが、私には全く記憶がありません。まあ、そんなチョウなのです。

北大虫研時代には札幌周辺でヘリチャとは結構付き合ったのですが、一応標本は作るものの特に思い入れはなかったようでした。そんな彼らと真面目に付き合うようになったのはやはり「道新本」制作の時でした。1985年に相棒と兄で道南を攻め、この兄弟に出会いカメラを向け、目と目が合った？時に、「いいチョウだ、かっこいい」と感じたのです。兄はもう気づいていたのか、ヘリチャの幼虫たちを探し出していました。

右に「道新本」の写真の一部を載せました。目と目があった写真はスジチャの右の上の写真です。かっこいいと思ったのは、前中脚をすくっと伸ばしているところでした。どんなもんでしょう。

スジチャ

▼♀ (1985.8.24 桧山管内江差町)

▼占有する♂ (1985.7.30 同上)



ヘリチャ



▲雄蝶中の♀ (1985.8.1 桧山管内熱石町)



▲上・中齢幼虫 (1985.6.22 札幌市羊ヶ丘)
下・若齢幼虫の巣

写真は「道新本」から(成虫は私、幼生期は兄の写真)

富良野のスジチャ

「道新本」をつくる最終段階に入り勤務が富良野になりました。富良野では道東が本場のカラフトヒョウモン・ホソバヒョウモン・シロオビヒメ・オオイチなどの撮り残り撮影のためにフィールドを探し回りました。その中で鳥沼公園がすごく気に入って、すぐ近くの原野に家を建て今に至っています。さてこの兄弟たちですが、あのかっこいいスジチャ兄さんに思いがけず鳥沼公園で再会することになるのです。富良野でのスジチャ発見の経緯は、1991年に東大演習林に勤務する知人のIさんが演習林産のスジチャ標本を見つけ連絡をしてくれたことに始まります。標本は明らかにスジチャ君で、びっくり仰天。それで翌年から調査を始め、ヘリチャ君との分布や生活史などをまとめ日本チョウ類学会の機関誌に発表しました。右写真・図) 上のスジチャ君の羽化写真は鳥沼公園で蚊に刺されながらねばって撮った思い出の1枚です。富良野でのスジチャ発見はちょっとしたニュースでした。その後のスジチャは芦別や上富良野そして旭川でも見つかるようになりました。3年前には岩見沢の蝶友から三笠で採れたよとヘリチャと一緒にどっさり標本が送られてきました。なんだか外来種のような勢いで増えているようです。外来種と言えは1999年にこの兄弟のいとこのようなカラフトセセリが北海道に侵入しました。それはともかくスジチャがいつどのようにして入ってきたのでしょうか。そんなことを考えていると、新たな富良野のスジチャ情報が入ります。地元の小学校の先生が1978年に東大演習林の樹木園で採った標本が見つかりました。(写真)一番古い記録だと思えます。どうも東大演習林から分布拡大しているふしがあり、ブナなどの苗木の移入などを疑い演習林の職員の方々からいろいろ聞きましたが、事実はなさそうでした。侵入経路は謎のままです。



スジチャ 1992・7・28鳥沼



ヘリチャ 1,992・8・3 南富良野

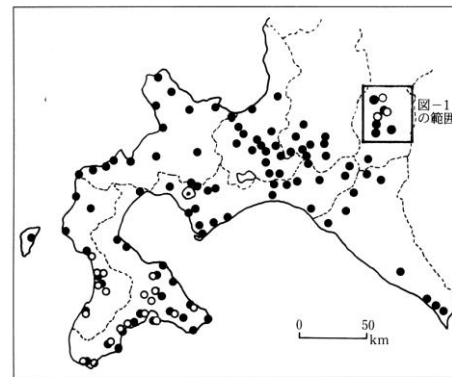


図-5 北海道における *Thymelicus* 属の分布

○ スジグロチャバナセセリ ● ヘリグロチャバナセセリ



図-1 富良野市周辺 Thymelicus 属の分布 (国土地理院 20 万分の 1 地形図「夕張」)
○ スジグロチャバナセセリ ● ヘリグロチャバナセセリ
大きな円はライセンスによる密度の大きい地点。×は生息が見られない地



上の写真・図は(Butterflies No.7/1994 39-44)「富良野市周辺のスジグロチャバナセセリ」から

左写真 富良野市博物館報告(2020号 5-8 永盛「富良野市立東小学校に保管されていたスジグロチャバナセセリの標本について」から

スジチャの生活史①

スジチャ君は主に1992年から富良野を中心に観察を続けています。卵はイネ科植物の枯れた葉の隙間に押し込まれていて外からは見ることはできません。なので卵は産卵行動を見てからでないといを見つけることはまず無理です。ヘリチャも同じです。富良野にスジチャがいることがわかってから、なぜか我が家の庭周辺にたくさん飛び始めました(右写真)。家のまわりの道は自分で管理しなければ近所迷惑になるので、芝刈り機を購入して、イネ科主体の雑草が伸びてきたら定期的に草刈をしています。スジチャ君はそのイネ科特にクサヨシで発生しています。2016年8月22日、そろそろ草刈りかなと草むらを見ていると産卵行動に出会いました(下写真)。12時55分やっと産めそうな枯葉を見つけ2分間かけて腹を枯葉の隙間に押しつけながら移動し6卵産み付けました。その枯れ草にピンテを付けて孵化を待ちます。約1か月たってカールした部分を開けてみると卵のカラとその周囲に薄い膜でおおわれた袋がありました。それを開けると幼虫がいました。イネ科は1年草なので霜が降りるころ枯れてしまいます。そんなイネ科に合わせた習性なのでしょうね。

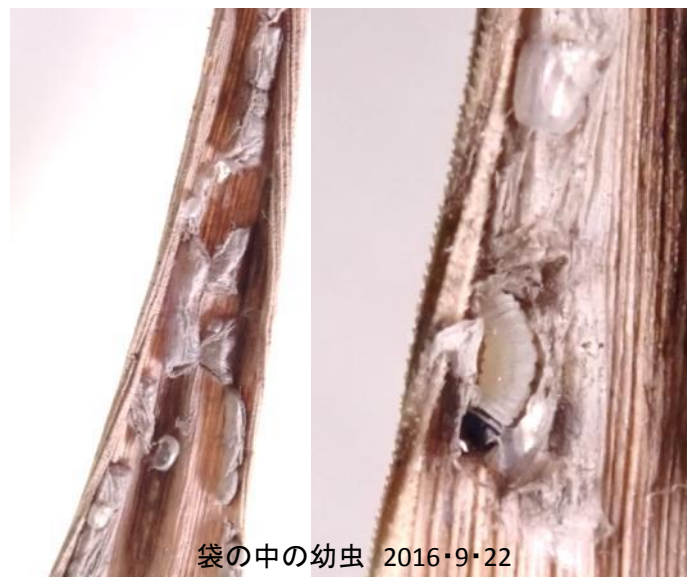
家の近くのハーブに群がるスジチャ君 2012・8・6



枯葉に産卵 2016・8・22



産付された卵 2016・8・22



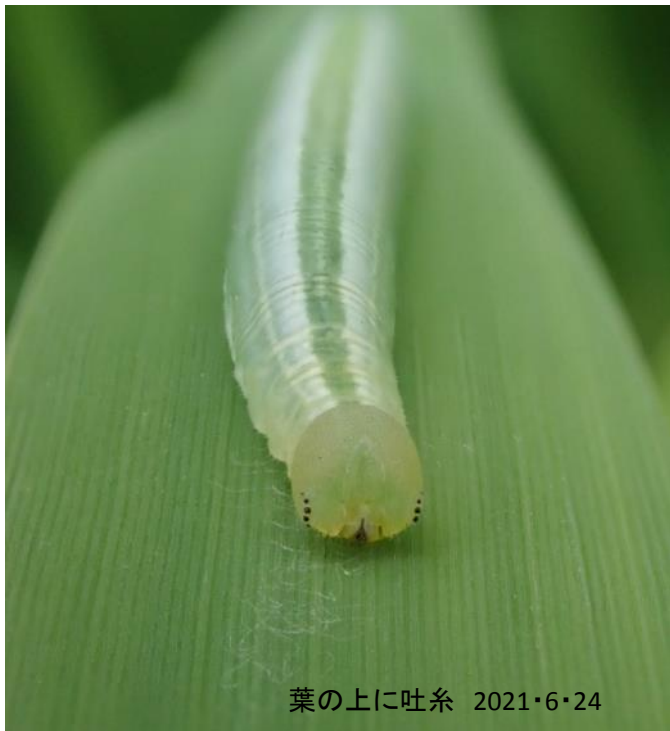
袋の中の幼虫 2016・9・22

スジチャの生活史②

スジチャ越冬幼虫君のその後ですが、春にイネ科植物が出てきて葉に食いつくのでしょうか、その辺の観察は超難しくなります。枯草の藪の中からでてきて、地面を歩きながらイネ科植物を見つけ食いつくのでしょうか…クサヨシの葉が伸びてきてからポツポツ見つかり始めます。右の写真は飼育した時の植木鉢の食草上の1齢幼虫の様子です。1, 2 齢の頭は黒いのですが3 齢からは緑色になります。中齢までは葉を筒状の巣をつくり中に入っていますが、終齢になると、とくにクサヨシに着く幼虫は葉に台座をつくるだけでむき出しで見つかります。葉の食痕を頼りに探すと発見は容易です。蛹化もそのまま葉の上でおこなわれます。蛹の頭の方と尻の方に白い蠟状物質が付着しています。これは何の意味があるのでしょうか？蛹の期間はおよそ10日間です。下の写真はすべて富良野のスジチャ君です。



ふ化した幼虫が葉に上ってきた。そして最初の巣をつくった。左 2019・3・31 右 同 4・2



葉の上に吐糸 2021・6・24



産付された卵 2016・8・22



前蛹 2015・7・12



蛹 2015・7・14

ヘリチャの生活史

写真はいずれも伊達市南稀府で撮影

では弟分ヘリチャの場合です。生活史を調べていくと、兄貴と驚くほどよく似ています。富良野のいくつかの産地では同所的に分布し、食草も同じ様なイネ科植物です。一番幼虫が見つかるのはクサヨシです。この他オオアワガエリ、オオネズミガヤ、カモガヤなど、ヘリチャではヒメノガリヤスも大好きなようです。ヘリチャも若齢時は葉を巻いた巣の中に隠れていて、巣と食痕から見つけます。

ヘリチャの幼虫は202012・13年の伊達緑丘高の勤務時代に観察できました。発生地は朝の散歩でも観察できる、私の教員公宅から直線で100mの川の土手の草地です。ここではカシワにキタアカも発生していて、夕方の散歩ではウラゴマダラの乱舞、ときにはウラキンもみることでもできるという素晴らしいところでした。食草はクサヨシが主です。食痕は斜め、台形型で若齢時は筒型の巣をつくりますが終齢は結構むき出し状態でした。蛹まで同じ株で観察できました。ただ卵などはまだ撮影できず「完本」には間に合いませんでしたが、貴重な写真財産となりました。



ヘリチャ 2013・8・1



摂食する2齢 2012・6・9



終齢 2012・7・5



前蛹 2012・7・10



蛹 2012・7・11

ヘリチャの生活史②

ヘリチャの生活史はその後、安平町や厚真町で観察できました。産卵はスジチャと同じでした。道端の明るい草むらを飛び回り、時々枯葉にとまります。少し歩いて葉のカール部分が無いか確かめているようです。右の写真では約1分かかって3卵産み付けました。乾燥してカールした葉に腹端を押し付けて拵げ、産みこんでいます。このフィールドでは若齢幼虫も比較的容易に見つけることができました。実は難敵種のキマモドの幼虫を必死に探している時に見つかるのです。フィールド版に掲載されている相棒の写真は5月12日の1齢のものです。よく見つけたものです。ヒメノガリヤスのまだ伸びはじめの細い葉を綴って巣をつくっています。下の写真は同じ場所で6月9日に撮ったものです。この時は2齢と3齢が見つかりました。富良野ではまだ見つけてはいません。課題です。



兄弟の関係は？

スジチャ君とヘリチャ君兄弟の関係は如何なんだろう。食草はほぼ同じ、発生期もほぼ同じ（ヘリチャの方が少し早い）です。きっぱり棲家を分けていればややこしい関係は生れないのだろうけど…富良野にスジチャがどういう理由でやってきたかはわかりませんが、ヘリチャの生息域にスジチャが入ってきている、つまり混生地があちこちに見られます。もともといたヘリチャ君は新参のスジチャ君をどう思っているのでしょうか。

1992年に両種が生息する市内の2線川の土手で両種の出会いの行動を少しだけ見ることができました。

8月12日スジチャの発生がピークを迎えオスとメスの求愛行動が盛んに見られました。雄はメスを見つけると下の写真のように後ろから翅を震わせながら近づきます。♀が翅を震わせれば交尾拒否です。そのまま受け入れれば交尾成立となります。スジチャの雄2頭はそれぞれの場所でなわばりをつくって雌の侵入を待っていました。そこにヘリチャの♀がやって来ました。さあどうなるのでしょうか。ドキドキしながら見ていると、10cm位に接近するチャンスが4回もあったのですが、スジチャの雄は全く反応しませんでした。ヘリチャの♀がスレていて魅力なかったのでしょうか。スジチャではないと見破ったのでしょうか。セセリでは結構異種間の求愛行動が見られるので、何とも言えません。彼ら兄弟の気持ちはまだまだよくわかりません。



混生地布礼別林道の2種 2025・7・17 左スジチャ♂ 右ヘリチャ♂



スジチャ占有ポーズ 2017・7・18 富良野



スジチャの求愛行動 2024・7・30 富良野



スジチャ交尾成立 2014・8・6 富良野

つけたし①

最近では道端のクサヨシなどイネ科群落を見ると兄弟たちがいないか、ついつい気になってしまうようになりました。この兄弟の幼虫探しの参考までにいろいろな葉の食痕や巣を並べてみます。



①:1齢 2015 5・5 富良野 クサヨシ
②:2齢 2024・5・29 旭川 ホガエリガヤ
③:3齢 2011・6・11 富良野 クサヨシ
④:4齢 2011・7・2 富良野 クサヨシ **スジチャ**



⑤:3齢 2012 6・9 伊達 巣を開けたもの
⑥:3齢 2012・6・9 伊達
⑦:亜終齢 2018・6・23 安平産
⑧:終齢 2012・7・5 伊達 巣をつくっていないタイプ。食草はすべてクサヨシ

ヘリチャ

つけたし②

この兄弟たちは非常によく似ています。兄弟の見分け方をちょっと紹介します。オスではスジチャの前翅に斜めに走る性標があることで区別できます。♀は難しいのですが、スジチャの全後翅の縁の黒っぽい帯がはっきりと目立ち、前翅では縁に平行に走っています。ヘリチャの前翅の黒っぽいヘリは下の部分で内側に伸びています。野外写真を少し並べてみます。同定できるでしょうか。正解は次頁で。



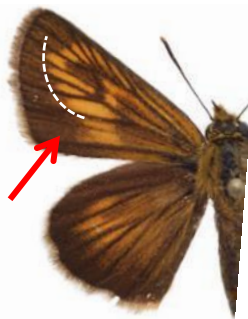
スジチャ♂



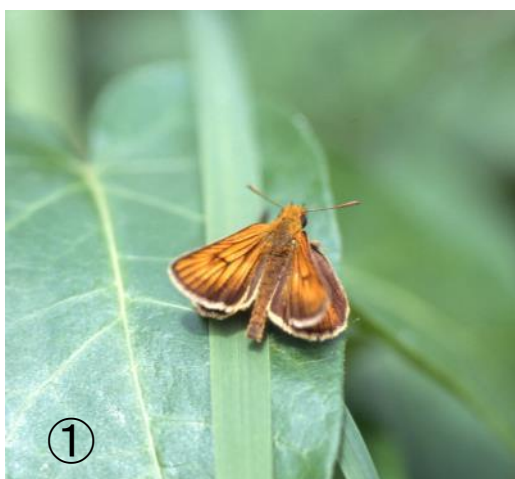
ヘリチャ♂



スジチャ♀



ヘリチャ♀



①



②



③



④



⑤



相棒の飛翔写真

⑥

今回は 兄弟種スジチャ・ヘリチャを紹介しました。それぞれの暮らしぶりはよく似ています。経由は不明ですが富良野から始まったスジチャの分布域の拡がりを利用して、2種が同じところに揃っているという富良野やまだ行ってはいない三笠のフィールドで、兄弟関係について今後もじっくり見ていきたいと思っています。



兄:スジチャ



弟:ヘリチャ

The end

同定の答え

- ①ヘリチャ♂
- ②スジチャ♀
- ③スジチャ♀
- ④スジチャ♂
- ⑤ヘリチャ♂
- ⑥ヘリチャ♀